

「コロナ禍の外食」

中川 良一

＜新型コロナウイルス感染状況＞

2020年12月22日現在、ベトナムの感染状況は、感染者数1,414人、死亡者35人、回復者数1,269人で、このうち国内感染者693人、海外入国者隔離中発症721人となっています。

11月29日に、保健省はベトナム航空の男性客室乗務員が新型コロナ感染検査で陽性だったことを発表しました。14日の日本からの帰国フライトに従事し、帰国後18日まで、ベトナム航空集中隔離施設に滞在しました。その間に実施した2回のPCR検査結果は陰性だったので、その後は自宅隔離でしたが、自宅隔離期間中、濃厚接触した英語教師1名が感染し、さらにその教え子の学生1名と、1歳の幼児も感染しました。

12月1日、首相はベトナム航空会社の海外からの定期便と臨時便の運航中止を発表しました。上記の感染発生により、ハノイ市では、10月に日越間で合意した隔離なしのビジネス渡航とビジネストラック（行動範囲を限定したビジネス活動）の許可が下りなくなりました。

＜密を回避した換気抜群の路上レストラン＞

発生より三週間経過後の現在、感染拡大は確認されず、オフィスの朝食・昼食時間帯でのレストランの賑わいも普段どおりとなりました。オフィススタッフは、まだまだ伝統的なストリートレストランで朝・昼食を取る人が多く、歩道に並べたプラスチックの机と椅子で仲間と一緒に食べる食事は、和気あいあいとして楽しく、かつコロナ感染防止に役立つ、もっとも換気の良いレストランであるとも言えます。



【歩道に並べた机と椅子で食事】

メニューは、米（もち米）、麺類及びパンがあり、朝食の代表的な食べ物として、「XOI（ソイ）」があります。ソイは、もち米や豆類を混ぜて蒸したものです。

ソイ1食の値段は1万ドン（約45円）と値段が手頃なので、人気のある食べ物の一つです。



【伝統的な朝食 XOI（ソイ）】

人気のある麺類は、ほとんど米が原料です。米麺類の料理も多種多様で、日本でも人気のある「Pho（フォー）」はベトナムでも人気です。フォー専門店がベトナム中の至るところにあります。牛肉を使ったフォー・ボー、鶏肉を使ったフォー・ガーがあり、フォーの値段は一杯約4万ドン（約180円）です。またフォーは一般的に揚げパンと一緒に食べる習慣があり、一本2千ドン（約9円）です。またフォーを食べた後には、お茶を注文します。お茶一杯の値段は約3千ドン（約14円）です。1食あたり、合計200円程度となります。

フォーの店は一日中営業しており、お昼と夕方には、焼きフォー（焼うどんのようなもの）、焼き飯などがメニューに加わります。

また、ベトナムでは、フランス統治時代の名残で、フランスパンが好まれます。ベトナムで人気のあるフランスパンのサンドイッチ「バイン・ミー」は、約1万5千ドン（約70円）で食べることができます。

ロッテリア、ケンタッキー、マクドナルドなど有名バーガー系ファーストフードチェーン店も徐々に普及しつつありますが、やはりベトナム人は伝統的なバイン・ミーが大好きです。

いよいよ新暦の年末が近づき、さらに2月12日の旧暦新年も、残り1か月半となりました。コロナの心配なく新年を迎えるよう、政府は今後も厳しい対策を取るとは思われますが、人々の生活はコロナ前の日常に徐々に戻りつつあるようです。